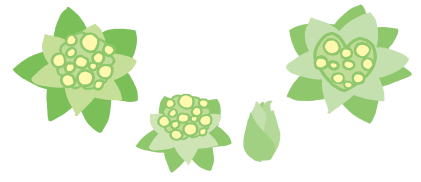


おおふなと

ふれあいネットワーク

社協だより



2017年3月号

【特集】地域で「支えあい」ながら

暮らし続けるために……………2～3

子育て支援情報……………4

高校生ボランティアスクール……………4

老人クラブ連合会（女性部）……………5

社協だよりに関するアンケート調査結果……………5

おしらせ……………6～7

輝き人……………8



今月の表紙

きくち ひろゆき くみえ
菊地 博行さん・久身江さん

ゆうか あやか
優花さん(中1) 彩花さん(小5)

かりん (三陸町 吉浜在住)
花梨ちゃん(年長)

4月に三女が小学校に
入学します。



地域で「支えあい」ながら 暮らし続けるために

といった日常的な娯楽も十分「社会性」の維持に役立ち、それが筋肉量の維持、虚弱予防にもつながります。

日々の暮らしの中で行われているおすそ分け、お茶のみ、立ち話なども、社会性の継続には効果的です。

「孤立」は、「虚弱」のはじまりです。お互いに、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるためには、見守り、見守られて、支えあつていくことが大切と言えます。

見守りの推進役「地域福祉委員」

社会福祉協議会では、「地域福祉委員」を配置して見守り活動を進めています。

地域福祉委員は、民生委員・児童委員が兼務しているところが多いですが、より地域での見守りが行き届くよう、地域公民館長等の推薦により委員を委嘱し、各行政

区に1名以上配置しています。

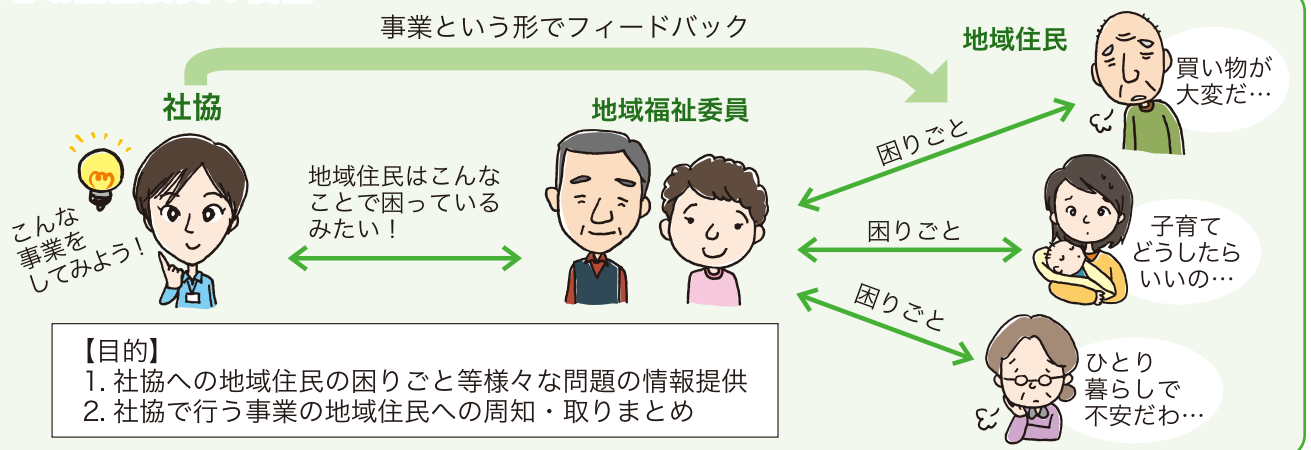
「地域福祉委員」は、見守りや支援が必要な人をご近所や血縁者と共に見守れるよう働きかける役割を担うほか、困りごとを抱えている人や支援を必要としている人と社会福祉協議会をつなぐ役割も担っています。

12月1日付で、新たに144名を地域福祉委員に委嘱しました。困りごとの相談は、担当の地域福祉委員へご相談ください。



地域福祉委員研修会にて

地域福祉委員の役割



東京大学・高齢社会総合研究機構が、2012年に千葉県柏市で調査した結果によると、健康長寿のポイントは、①社会性があったて、②毎日よく動き、③よく肉料理を食べることだそうです。

栄養状態が衰えて、血液中の各因子の値が落ちてから社会性が落ちるのではなく、社会性が衰えるところから活動性が低下し、負の連鎖が始まる、ということが明らかにになりました。

また、元気で長生きな人に共通する生活習慣の決め手は、「きょういく」と「きょうよう」と言われています。「きょういく」とは「今日、行くところがある」、 「きょうよう」とは、「今日、用がある」ということです。

サロンやランドゴルフ、散歩

盛町

新沼幸夫(吉野町)
出羽秀二(上木町)
鈴木恵子(木町)
水野連(八幡町)
保原勘二(旭町)
須藤成子(愛宕町)
鈴木郁子(本町)
佐々木均(〃)
佐々木雅弘
(桜場・盛中央団地)
佐々木紀子
(〃)
伊藤ミキ子(田茂山二区)
佐々木憲江(田茂山一区)
及川由起子(御山下)

大船渡町

佐藤義清(下船渡)
鎌田富夫(宮ノ前)
菅原康紘(平一区)
久保田敏弘(平二区)
丹野秀次(永沢)
佐々木二郎(北笹崎)
和野多喜夫(南笹崎)
木下正弘(川原)
小畑かよ子(田中)
森正博(明神前)
神永秀知(屋敷)
新沼順子(〃)
北條満洋(明土)
小森克則(台町)
鳥井英志(中央通)

末崎町

竹野武子(上山)
豊見坂三郎(赤沢東部)
瀧磯義郎(赤沢西部)
佐藤洋志(地ノ森一区)
佐藤博克(富沢一区)
四役恵子(地ノ森二区)
村上誠(富沢二区)
菅原圭一(〃)
熊谷忠義(船河原)
岩脇晶(峰岸)
村上良子(内田)
金野清子(細浦)
村上優司(神坂)
近藤均(〃)
佐藤孝(小細浦)
平野晋一(中野)
古澤マチヨ(平)
大友たつ子(小田)
細川文規(梅神)
細川レイ子(〃)
羽根川弘道(小河原)
新沼利雄(門之浜)
熊谷竹二郎(中井)
大和田東江(西館)
菅野雅子(山根)
濱守タイ子(三十刈)

赤崎町

佐々木孝逸(中井一区)
青砥齊(中井二区)
及川保男(中井諏訪前)
田代憲子(沢田)

猪川町

田代研三(佐野)
氏家一志(〃)
三浦素子(後ノ入)
山口仁之(大洞)
吉田良子(宿)
山口定夫(山口)
金野正博(大立)
鈴木静子(永浜)
鈴木隆洋(清水)
新沼芳子(上蛸ノ浦)
石橋祥子(下蛸ノ浦)
小澤晴喜(長崎・外口)
志田淳也(合足)
千葉喜美夫(大野)
滝田貴子(新道)
佐藤哲朗(上久名畑)
佐々木エミ子(下久名畑)
吉川弘(下権現堂)
佐藤次郎(前田)
金野美智子(〃)
菊池貫二(下富岡)
小笠原むつ子(〃)
今野祐輔(上富岡)
田村敏夫
(長谷堂・長谷堂団地)
下斗米霞
(〃)
千葉諭(下中井)
志田克子(大畑野)
新沼富士夫(町場)

立根町

新沼富士夫(町場)

日頃市町

今野定志(町場)
佐藤健一(上手)
今野悦子(平田)
晴山和香子(田谷)
滝澤清人(和村)
水野善文(久保)
佐藤嘉孝(川原)
上野叔子(〃)
金野郁子(下欠)
菅生和昭(菅生)
鈴木了子(甲子)
中村和司(鷹生)
新沼みち子(宿)
平山慶太郎(平山)
近江俊洋(小通)
山下タエ子(長安寺)
木ノ下見道(〃)
佐藤均(板用)
猪股則子(川内)
村上守克(関谷)
佐藤和子(大森)
新沼幹子(坂本沢)
鈴木實(石橋)
佐々木純二(田代屋敷)
泉幸子(小路・石浜)
熊谷憲治(田浜)
新沼公明(港下)
村上照子(港上)
森田善介(岩崎)
森田裕子(野形)

三陸町綾里

新沼公明(港下)
村上照子(港上)
森田善介(岩崎)
森田裕子(野形)

三陸町越喜来

千葉せいこ(宮野西)
木村達子(宮野東)
佐々木秀明(野々前)
千田京子(白浜)
熊谷勵(〃)
船渡順一(砂子浜)
松川初子(小石浜)
斎藤富子(甫嶺東)
大久保泰之(甫嶺西)
清水律子(上甫嶺)
前野浩哉(泊)
田中守正(浦浜南)
及川正子(浦浜西)
葛西マキ子(浦浜仲)
古水和子(〃)
熊谷修子(浦浜東)
及川芳子(崎浜西)
遠藤弘子(崎浜西・烏頭)
上村勤(崎浜東)
菊地重子(大野)
橋本綾子(中通)
菅野喜美男(増館)
木村春美(上通)
斎藤淳子(下通)
八巻利勝(後山)
岡崎千栄子(扇洞)
木村みゆき(根白)
佐藤美智子(千歳)
任期・平成31年11月30日まで

情報紙「子育て支援情報」 乳幼児の子育てに必要な 情報をお届け



「子育て支援情報」は、毎月20日頃の発行です。

「子どもを遊ばせたいけど、どこに行けばいいかしら？」乳幼児を育てている人が、家事や育児の合間を縫って必要な情報を集めるのは、とても大変です。社会福祉協議会では、安心して子育てできるように、毎月、市内の子育て支援が一目でわかる情報紙「子育て支援情報」を発行しています。

場として、大船渡市Y・Sセンター内に開設している地域子育て支援拠点スペース「つどいの広場わいわいステーション」の行事のほか、子育て支援センターや乳幼児健診、保育園の未就園児教室の日程をカレンダーにして紹介しています。

つどいの広場わいわいステーションで配布しているほか、市内の子育て支援センター、スパーの掲示板、小児科などに置いてあります。また、本会ホームページ、おおふなと子育て支援サイト「つばきつづ」でも見ることが出来ます。

A4版サイズとA5版サイズのものがありますので、お好みに応じてお持ちください。

(利用者の声) 30代、女性

毎月楽しみにしています。イベントの情報は掲示だけでは見落としてしまうし、これ1枚で市内の子育てについての情報がいろいろとわかるので、とても助かっています。

高校生ボランティアスクール 主体性と思いやりを大切に



講師の元待幸子さんは大槌町出身。現在は、NPO法人つどいの事務局長として活躍しています。

2月27日に、岩手県立大船渡高等学校にて高校生ボランティアスクールを開催しました。当日は、定時制と全日制JRC同好会の生徒ら15人が参加。青年海外協力隊からコスタリカ共和国へ派遣され、現地で活動した経験のある理学療法士の元待幸子さんから世界の現状や国際ボランティアについてのお話を聞きました。

最初に、ボランティアの意味を確認。ボランティアは無償で行なうことと思われがちだが、「ボランティア」という言葉には、「喜んでする」「自ら進んでする」といった意味があり、自発性や主体性が大切であると説明がありました。

続いて、近江商人の心得である「三方よし」を例に、ボランティアも「相手よし、自分よし、みんなよし」という考えが大事。良い繋がりが生まれるように、一歩踏み出してみましょうと話されました。

最後のグループワークでは、自己紹介を通して気づいた自分の強みを元に、自分たちができる「三方よし」について考えました。あるグループでは、『自身の健康保持を図るために行っている「ランニング」を通じて、地域の見守りができる』という意見や『若者主体の活動を広げていけば、大船渡全体も良くなる』という意見が発表されました。

大船渡市老人クラブ連合会（女性部） 友愛活動による見守り活動の実践



訪問活動の度に、その日の対象者の様子などを「友愛活動日誌」に記録します。

大船渡市老人クラブ連合会女性部では、平成24年度から、ひとり暮らし高齢者世帯や高齢者夫婦世帯などを訪問して交流を深める「友愛活動」を実施しています。

訪問先は、会員世帯はもちろんのこと、会員以外の世帯も対象で、地域での交流を活発にすることで、孤独感の解消や事故防止、生きがいの高揚を図ることを目的としています。

内容は、対象者に応じて、「声かけ」や「ごみ出し」、「お茶のみ」など、さまざま。時には、訪問先で、花の栽培方法やパッチワークについて教えてもらうこともあります。

「当初は、応急仮設住宅に住んでいる方への訪問活動でしたが、地域には、被災した方々のほかにも見守る必要がある方がいることを感じていたので、2年前に今のスタイルに変えました。地域で高齢者同士が支えあっていることが大事だと感じている」と西村文二事務局長。

木村久子女性部長は、「高齢者になつてくると高齢者同士でお茶のみしながらのおしゃべりが何よりのストレス解消になるもの。心に残るような重い話ではなく、軽い話を時間をかけて話すくらいがちょうどいい。これからも、横のつながりを大事に、無理のない範囲で活動を続けていきたい」と話しています。

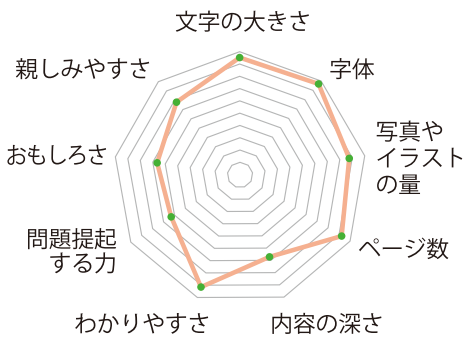
広報発行事業

社協だよりに関するアンケート調査の結果



社会福祉協議会では、今年度、「社協だよりを読んだら、大船渡市の福祉がわかる」を目標に広報改革に取り組んでいます。

昨年3月に編集委員会を設置し、1年かけて、これまでの社協だよりの見直しと新しい社協だよりの方向性を探ってきましたが、市民の方々から広くご意見を聴くことが必要と考え、2月から3月にかけて、10代から70代以上までの468人を対象にアン



ケート調査を実施しました。

調査では、文字の大きさや字体などの9つの観点から社協だよりを評価してもらったほか、興味や関心の高い記事、「おおふなと社協だより」という名称、縦書きから横書きへの変更といった点について意見を聴きました。

その結果、問題提起する力、おもしろさ、内容の深さといった点の満足度が低いこと、ふくし川柳への興味や関心が低いことなどがわかりました。

現在、調査結果の分析と課題解決に向けての方策を考えているところですが、新たに、社協だよりのガイドラインを作成し、しっかりと評価と改善を図りながら、住民のみなさんが必要な情報を提供できるよう、引き続き、取り組んでいきます。ご協力いただきましたみなさん、ありがとうございました。



*子育て関連情報

おでかけひろば 親子でOK

子育て親子の交流の場です。孫育て中のおじいちゃん、おばあちゃんや、妊娠中の方、地域の方のご参加も大歓迎です。

※4月14日(金) カメリアホールでのおでかけひろばは、慢性疾患などで自宅療養中のお子さんとおうちの方を対象とします。

時間 午前10時から正午(大船渡地区公民館での「おでかけひろば」は、午後1時30分から午後3時30分まで)

おでかけひろば日程(4月)

開催日	会場
14日(金)	カメリアホール
18日(火)	大船渡地区公民館
26日(水)	カリタス大船渡 地ノ森いこいの家

大船渡市長と話そう 親子でOK

戸田公明大船渡市長と、直接、大船渡の子育てについて話をする機会です。できるだけ、事前の申込みをお願いします。

日時 3月28日(火) 午後1時30分～(1時間程度)

場所 大船渡市Y・Sセンター(つどいの広場わいわいステーション)

対象 市内で子育てしている保護者

申込〆切 3月27日(月) 午後5時

*生きがい健康づくり事業

水泳教室受講生募集

平成29年度第1期の水泳教室を次のとおり開講します。受講希望者は、受付期間内に大船渡市Y・Sセンターへ申込んでください。

水泳教室名	曜日	時間	定員	回数	期間	内容
ラクラク教室	火	午前10時～11時	40名	14回	4月11日～7月11日	水中運動
イキイキ教室	水	午前10時～11時	40名	13回	4月12日～7月12日	水中運動
スイスイ水泳教室	木	午前10時～11時	40名	13回	4月13日～7月13日	水泳指導
リラックス水泳教室	木	午後6時30分～7時30分	40名	13回	4月13日～7月13日	水泳指導
チャレンジ水泳教室	金	午前10時～11時	40名	13回	4月14日～7月14日	水泳指導
児童水泳教室	土	午前9時30分～10時30分	40名	13回	4月15日～7月15日	水泳指導
		午前10時30分～11時30分	25名			

受付期間 3月28日(火)～30(木)

*初日は、児童水泳教室を優先して受け付けます。

受付時間 午前9時30分～午後4時30分

受講料 1教室1,000円(プール利用料別途)



「募集」「イベント」「お知らせ」など暮らしに役立つ情報をお届けします。



申込・大船渡市社会福祉協議会
問い合わせ先 電話 0192(27)0001(代表)

*支えあいまちづくり事業情報

陽だまりサロン

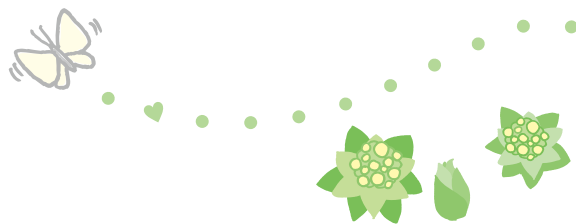
誰でも参加できるサロンです。ご近所お誘いあわせの上、お近くのサロンへお越しください。

時間 午前10時から正午(猪川地区公民館でのサロンは午後1時まで)

内容 血圧測定、軽体操、ゲーム、手芸、お茶っこなど

陽だまりサロン日程(4月)

開催日	会場
7日(金)	吉浜地区拠点センター
11日(火)	田代屋敷公民館
	碁石コミュニティセンター
12日(水)	崎浜公民館
	鷹生公民館
19日(水)	崎浜公民館
21日(金)	下中井公民館
25日(火)	猪川地区公民館
28日(金)	綾姫ホール



*岩手県福祉人材センター情報

介護のしごと相談

キャリア支援員が福祉の職場に就職したい方などの相談に応じます。相談は、事前予約の方を優先します。会場は、いずれも大船渡市Y・Sセンターです。

介護のしごと相談 (4月)

開催日	時間
10日(月)	午前9時～午後4時
17日(月)	午前9時～午後4時
24日(月)	午前9時～午後4時

申込・問い合わせ先

岩手県福祉人材センター・坂本さん、電話 080-8201-0200

*老人クラブ情報

入会のご案内

年齢を重ねても新しいことにチャレンジすることで、生き方は全く変わってきます。まずは住み慣れた地域の仲間たちと楽しいクラブ活動に参加を！新しい出会い、たくさんの人々とふれあって交流を深め、生きがいづくりをしましょう。

対象 おおむね60歳以上の人

活動内容 心と体の健康づくり、高齢者が相互に支援する友愛活動、地域を豊かにする奉仕活動

申込・問い合わせ先

大船渡市老人クラブ連合会・西村さん、電話 (27)0001

*生きがい・健康づくり情報

筋力トレーニング指導

Y・Sセンターのトレーニングルームにある器具（エアロバイク、トレッドミルほか17台）を活用した筋力トレーニングを定期的に指導します。

対象 中学生以上の人

指導日 毎週金曜日

時間 午後1時30分～午後3時30分

受講料 無料（別途、トレーニングルーム利用料がかかります。）

講師 特定非営利活動法人さんりくWELLNESSに所属する健康運動指導士

*寄附受入報告

復興支援金

2月に次の方々からご寄附をいただきました。ありがとうございます。
明治安田生命大船渡営業所様



「ふくし川柳」

課題「雑詠」 富谷英雄 選
投句数15句

日向ぼこ柔軟体操猫のたま
耳に手を当て聞き返す同級会
待ちわびるただひたすらに春を待つ
大丈夫木々の緑に囁かれ

盛・金野 幸恵
大・岩渕ヨシエ
大・金山みどり
東京都調布市
・田中 美沙

人生に涙で飾るドラマあり
ハイカラな服の値札をそつと見る

吉・千葉 元子
赤・志田 トミ

春が来た歩け歩けと誘う靴
春風も微笑んでいる桜道

末・滝田 澄子
東京都調布市
・島田 敬子

晴雪が名残惜しいと舞い上がる

日・佐藤アサ子

《佳作》
青い鳥 探し続けて 現在地

立・武田 みつ

青い鳥には出合えなかったが、幸せな人生を送っている作者の現在の状況が想像できる。「現在地」という下五の着地も見事だ。東日本大震災から丸6年。被災者の皆さん方の「現在地」はどうなっているのだろうか…。

4月号課題 「道」

締め切り

4月5日(水) **必着**。
1人1句。(自信作をひとつ)
はがき使用。

投句先

立根町字下欠 125-12
「Y・Sセンター」内
大船渡市社会福祉協議会
「ふくし川柳」係

その他

作品によっては、
添削する場合があります。
投句者の氏名にはフリガナ
をつけてください。

輝き人

えん どう みのる
遠 藤 稔さん (43歳)

猪川町在住。実家のある赤崎町で、消防団活動をしている。現在、大船渡市消防団第6分団第3部部长。



自分たちの地域は自分たちで守る

●「人と人とのつながり」を実感

社会人になった時、すでに消防団員として活動していた叔父に勧められ消防団員になりました。

当時は、あまり消防団活動のことを知らないままに入団しましたが、「地域とのつながり」や「人と人とのつながり」を実感するにつれ、消防団に入って良かったと感じます。

●子どもたちと共に火防点検

私が所属している部は、赤崎町の北部に位置する佐野、沢田、中井の3つの地域、通称「上三区」を管轄して活動しています。子供会活動や地域に伝わる「権現様」の伝承活動も活発で、もともと、地域全体で子どもたちを育てていこうとする雰囲気がある地域です。春と秋に実施する火防点検では、

私たち消防団員のほかに、消防団OBで組織する消防後援会、

婦人防火クラブ、そして、小学4年生以上の子どもたちが一緒に各家庭をまわっています。

消防のユニフォームを着た私たちだけで訪問すると、地域の方々は構えてしまいがちですが、女性や子どもたちも一緒だと反応も良く、訪問先で心温まるふれあいも見受けられます。

●子どもたちに伝えたいこと

火防点検を通して子どもたちに伝えたいことは、消防団の精神でもある「自分たちの地域は自分たちで守る」ということ。消防団だから地域を守るのではなく、そこに住む者として人任せにせず、自分たちで地域を守る事が大事であることを伝えたいのです。

各家庭を訪問して声掛けすることで地域にどんな人が住んでいるのかを知り、子どもである自分たちにもできることがあることを体験してもらおう。そうした良い機会でもあると思っています。

●今後の子どもたちに期待

震災後、私たち消防団は、踏ん張って活動してきましたが、震災から6年が経過し、仕事を優先しなければならなくなった人や、新しい土地へ家を建てるために引越す人が出てきました。また、消防団活動の主力として頑張っていた若い若者も少ない状況にあり、一人ひとりの団員の負担は大きくなっています。

子どもたちが大人になった時に、「自分たちの地域を守るために消防団活動に参加したい」と思ってくれたら嬉しい。そして、今度は、私が消防後援会として、子どもたちが消防団員として一緒に活動する日がきたらと願っています。



今月の社協だよりの中に、**ハートがいくつかがかかれています。**さていくつあるでしょうか？ さがしてみてね！